東北中央病院
Tohoku Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers

令和５年９月
NO.64

地域医療連携室だより

公立学校共済組合東北中央病院　地域医療連携室・入退院支援室
TEL　0120-703-995　FAX　0120-168-990　代表 TEL　023-623-5111

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷第２９回和ＧＯ懇話会

令和５年７月２７日（木）大手門パルズで、「第２９回和ＧＯ懇話会」を開催しました。お忙しい中、関係医療機関の先生方にご参集いただき有意義に開催されましたことに、厚く御礼申し上げます。

一般演題

『大腸 ESD による盲腸/虫垂口病変への挑戦』

演者：消化器・肝臓内科部長　石濱 活義　医師（写真左）

座長：ねもとクリニック　院長　根本 元　先生（写真右）

当院では 2012 年から保険収載された ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術：Endoscopic Submucosal Dissection）を 2023 年 6 月までに 1130 例行っており、その中で虫垂口近傍は 32 例を数えます。

虫垂口は大型の病変が多く、内視鏡的切除が困難になる症例が多いことから難治性困難部位と言われています。治療の合併症となる穿孔が生じたり、順調に切除ができたとしても腹痛や腹膜炎が起こりやすいため、切除後の経過を観察することが重要です。

講演では石濱先生の解説とともに、実際に行われた治療の動画を視聴しました。ESD は施術が長時間にわたるため、術者や患者に大きな負担がかかります。また、術後は病理検査の結果によって外科的手術が必要となる場合もあります。それでも、身体的侵襲による負担を考慮し ESD を希望する患者・家族は絶えないと、当院での ESD 治療の現状についてお話をいただきました。

特別講演

『糖尿病メタボリックシンドロームを見据えた これからの消化器病診療』

演者：山形大学医学部附属病院 第二内科
教授　上野 義之　先生（写真左）

座長：糖尿病内科部長　岡村 將史　医師（写真右）

近年はウイルス性肝疾患の割合が減少し、アルコール性及び NASH（非アルコール性脂肪性肝疾患）が増加しています。その要因として、抗ウイルス治療の進歩や生活習慣の変化が挙げられます。肝硬変から肝癌へ移行する成因についても、現在はアルコール性肝疾患や NASH が増加しており、NASH 患者においては糖尿病を含めた代謝関連合併症の発症頻度が高いため、他科との連携が重要とされています。また、最近の治療では画像診断に AI 装置が承認され、これまでわかりにくかった病変部発見に役立つなど、研修医に対する教育的効果や遠方の患者の治療に対する効果なども期待されています。

講演の終盤には、山形大学医学部東日本重粒子センターの設備・装置の概略、治療効果や経済的なメリットなども解説をいただきました。「山形モデル」とされる世界最小回転ガントリー・総合病院併設型・イージーオペレーションなどの仕様は、今後の海外普及も見据えたものになっています。また、肝癌に対しても重粒子線治療が保険適用となり、今後の肝癌治療に大きな期待を持てると、大変貴重なお話をいただきました。ご講演をいただき誠にありがとうございました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。